



↑オープンを記念し、園児によるテープカットが行われた。

**見晴らしがよく楽しめる空間に**  
■富士山静岡空港西側展望広場オープン

富士山静岡空港西側展望広場は2月18日、以前より2メートル高くなった展望台の見晴らしがよくなり、リニューアルオープンしました。オープンを記念し、園児が15鉢のナンジャモンジャの苗木を展望台の北側に植樹しました。記念式典では、空港管理事務所の森田所長が、「この広場を皆さんに利用していただき、楽しんでほしい」とあいさつしました。19日と20日には同展望広場で「空港PR隊牧原の市」が開催され、多くの人でにぎわいました。

**文化や歴史を通じて交流**  
■松川町・牧之原市文化協会交流会

友好姉妹都市となっている長野県下伊那郡松川町の文化協会（松澤充人会長）と市文化協会（坂本公夫会長）との文化交流会が2月16日、市内で行われました。平成20年6月に市文化協会の会員が松川町を訪問し、今回はこれを受けて来市したものです。松川町の皆さんは、相良史料館で市の歴史について学んだり文化財を熱心に見学したりしました。その後、市茶手揉み保存会から手もみの指導を受け、市の伝統文化を体験をしました。



↑茶の手もみを体験する松川町文化協会の皆さん。

**宝くじ助成金で祭りの備品を整備**  
■財団法人自治総合センター宝くじ助成事業

静波4丁目町内会では昨年10月、地域の伝統行事である祭典で使用する屋台を財団法人自治総合センターが行う「宝くじ助成事業」を活用し、整備しました。新調したのは、屋台刺しゅう幕や屋台電飾設備、投光器など10点です。これにより、子どもからお年寄りまでが毎年楽しみにしている祭典を継続することができ、今後も伝統文化の継承とさらなるコミュニティ活動の活性化が期待されます。



↑整備した屋台刺しゅう幕、正面簾、投光器。



↑仕事の重圧でうつ病になったサラリーマンの一家を演じる。

**家族や友達の支えが命を救う**  
■第2回男と女のフォーラム

今年度2回目の男と女のフォーラムが2月19日、榛原文化センターで開催されました。これは、女性の教養を高め、家庭生活や地域社会の向上発展と親睦を図るために市女性団体連絡協議会が主催したもので、女性団体連絡協議会各団体の活動が紹介されました。その後、おばあちゃん劇団「ほのお」（大石さき座長・藤枝市）によるうつや自殺をテーマにした演劇が上演され、「自殺を防ぐためには、家族や友人の支えが大切」と訴えました。



↑栄養士から説明を受け給食の試食をする見学者。

**学校給食の理解を深める**  
■学校給食展/牧之原市学校給食センター

学校給食展は1月28日、本市学校給食センターで行われました。これは、学校給食の意義や役割を保護者や地域住民によく知ってもらおうと開催されたものです。見学者らは給食の試食をはじめ、会場に展示された給食センターの1日や食育についてのパネルを熱心に見たり、調理場の様子を見学したりするなどして、給食への理解を深めていました。太向純子栄養教諭は「この給食展を通じて、給食センターが安全安心な地元野菜を多く使い、衛生面に十分注意して作っていることを知ってほしい」と思いを語りました。

**静岡県の地産地消をキルトで表現**  
■榛原高等学校家庭部/全国1位の受賞報告

県立榛原高等学校（中村幸広校長）家庭部は、このほど第10回日本キルト大賞のグループキルト部門で第1位に輝きました。家庭部の部員代表14人は2月10日、榛原庁舎を訪れ市長に喜びを報告しました。受賞作品は県の地産地消をテーマに、部員43人が昨年4月から10月までの約7カ月間掛けて作ったもの。部長の長谷川祐紀さん（2年生）は「みんなで声を掛け合いながら、力を合わせて作り上げました」と受賞の報告をしました。



↑受賞の報告をする榛原高等学校家庭部部員の皆さん。



↑喜びの表情でくす玉を割る沢田さん（中央）

**100万人目は韓国へ**  
■富士山静岡空港搭乗者100万人達成記念式典

富士山静岡空港では、開港から609日目となる2月2日、搭乗者が100万人に達し、記念式典が執り行われました。100万人目となった沢田恭子さん（静岡市）は、「突然のことでびっくりしました」と驚いていました。式典では、川勝知事から「いい旅になりますように」とお祝いの言葉があり、くす玉割りも行われました。沢田さんは喜びの表情で、韓国への空の旅へ出発しました。

広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報室 ☎ (23) 0044 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

